京都地方の恙虫の研究(第3報)

佐藤 淳夫 蒲 正 壽
加藤 彰郎

Sato, A., Kaba, M. & Kato, S.: On the
Tsutsugamushi-mites in Kyoto
Prefecture (III)

昭和29年3月～30年2月の間の京都府下に於ける採集成績を報告する。(1) 府下何鹿郡佐賀村 29年3月中にアカネズミ(5頭)より *T. fuji*, *kitasatoi*, *pallida*, *kochiensis*, *Gahrlepiea* sp. の2属5種129匹を得た。(2) 府下加佐郡大江山 昭和29年8月以来大江山に於ける恙虫の様相を知る目的で毎月採集を行つたが8月(アカネズミ1頭), 9月(モグラ1頭), 10月(ヒメズモグラ, ヒメネズミ各1頭)を捕えたが恙虫幼虫の附着は無かつた。11月には野兎は捕獲出来なかつた。12月, 1月には両月合計3属8種(674匹) [*T. fuji*, *kitasatoi*, *tanaka-ryoi*, *miyajimai*, *pallida*, *palpalis*; *Euschöngastia alpina*; *Gahrlepiea* sp.] で *Euschö. alpina* は12月標高約650mの稲荷社裏で捕獲したヒメネズミより5匹を得た。近畿地方に於ける最初の記録である。(3) 府下天田郡中上林村 29年8月及び9月に採集[アカネズミ10頭, ヒメズモグラ1頭], 1属3種, 計19匹, (*T. fuji*, *kitasatoi*, *nagayoi*) を得た。(4) 京都市周辺山地における成績 市内上賀茂, 銀閣寺, 御室の3カ所に於て29年3月より30年2月まで毎月採集を行つた。此の間に2属8種計6113匹 [*T. fuji*, *kitasatoi*, *kansai*, *intermedia*, *pallida*, *nagayoi*, *tanaka-ryoi*, *Gahrlepiea* sp.] の恙虫幼虫を得た。宿主としてはハツカネズミ(1頭), ハタネズミ(1頭), ヒメネズミ(6頭), アカネズミ(86頭), ヒメズモグラ(25頭), スミスネズミ(5頭), カヤネズミ(1頭), 計126頭である。(5) 以上の採集によつて3属12種の恙虫幼虫を得た。従来の成績と合せて京都府下よりは3属15種(上記のものに *T. japonica*, *tamiyai*, *scutellaris* を加う)が報告された事となる。(6) 又京都市周辺山地に於て捕えたアカネズミ86頭に附着せる恙虫幼虫は *fuji* (4454匹), *kitasatoi* (270匹), *tanaka-ryoi* (15匹), *kansai* (13匹), *pallida* (2匹), *nagayoi* (1匹), *Gahrlepiea* sp. (39匹), 計4794匹の2属7種であるが, *fuji* が最も多く約93%を占めて居る。之等の幼虫の附着部位を検するに耳内側に約90%の4123匹が見出され他のものがそれ以外の部位に附着して居た。他の部位としては胴部(349匹), 頭部(128匹)が多い。*fuji*, *kitasatoi* は耳内側に多く附く様であり, *Gahrlepiea* sp. はそ以外の部位に多く着く様で

ある。他の種については数が少く, 多少の判定は困難である。(京都府立医科大学・医動物学教室)

蠅の蟎について

森 下 哲 夫

Morishita, T.: On the mites parasitic
on flies

1954年10月岐阜市内でイエバエに寄生した2匹の本蟎を得た。蟎は蠅の腹部に寄生して居て前端を蠅の頭部の方向に向けて附着して居た。文献に依れば福島, 花城両氏が1934年10月の候に大阪市でイエバエ, キンバエに寄生した蟎を報告し *Macrocheles muscae* と同定している。私の得た蟎も Ewing の原著と照し合せて *Macrocheles muscae* とすべきものと考えられる。Ewing によれば本蟎は Gamasoidea 即ちヤドリダニ類に属し大阪の発見当時市民は丁度イエダニの入つて来た当座でイエダニが蠅で拡散されると騒いだと記載にある。従来♀のみが記載されている様であるが私の標本も♀2である。体長は0.96mm, 体幅は0.6mm。著しい特徴と感じたのは前脚が他の脚に比して著しく細く褥吸盤を末端に有しなく堅い1対の爪を有するのみ。他の3脚は末端の爪の間に朝顔状に拡がった褥吸盤を有する。

(岐阜医科大学・寄生虫)

衛生動物調査班報告

1954年度蠅班の調査報告

代表者 小林 晴 治 郎

1954 report of fly research commission

今年度は利岡静一(東京)加納六郎・岡崎常太郎(東京)渡辺清(京都)武衛和雄(大阪府吹田)加茂甫・住江直(福岡)末永歟(長崎県諫早)の8氏6カ所より報告を受けた。今年度の調査は関東以南の各地に亘つておりこの中加納・岡崎両氏は特に採集網で採集せられたニクバエ類について詳細な報告をよせられた。以上の報告では各種類に就て夫々詳細に分類されているが, その内容を全部ここに表わす余白がないので此等を属別に其の地の平均気温と並べて考察すると, 南部に行くに従つて蠅類の活動開始時期が早く又早期に最高となり, ついで夏季の減少期に移り秋季冬季に於ても遅く迄活動を続けている事がうかがわれる。即ち, 1) Genus *Musca* は長崎に於て少数採集されているがその数少く気候との関係を云々出来ない。只福岡に於ては11月に最も多く採集されている。2) Genus *Muscina* は京都・大阪に於ては5月下旬に最も多く, 長崎に於ては1カ月早く4月下旬に最も多く採集されている。3) Genus *Fannia* は京都・大阪